

平成23年行政事業レビューシート (環境省)

<b>事業名</b>	鳥獣保護管理強化総合対策事業		<b>担当部局庁</b>	自然環境局		<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成24年度～平成28年度		<b>担当課室</b>	国立公園課 鳥獣保護業務室 自然環境整備参事官室		課長 上杉 哲郎 室長 宮澤 俊輔 参事官 大庭 一夫	
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	5-2自然環境の保全・再生 5-3野生生物の保護管理			
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	鳥獣保護法第6条、第78条の2 自然公園法第2条第7号、第3条第2項、 第38条～第42条		<b>関係する計 画、通知等</b>	鳥獣の保護を図るための事業を実施するための基本的な指 針 生物多様性国家戦略2010 鳥インフルエンザ緊急総合対策について			
<b>事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)</b>	鳥インフルエンザ等の感染症に係る危機管理体制の飛躍的な充実を図るとともに、シカやイノシシ等の食害対策や担い手の確保、国立公園内外のシカ対策の促進等の総合的実施を通じて、人と野生動物の関係が大きく改善し、適切な鳥獣保護管理と地域の活力の回復を図る。また、これにより人と鳥獣が安心して適切に共生できる「豊かなふるさとづくり」に資することを目的とする。						
<b>事業概要 (5行程度以 内。別添可)</b>	上記について以下の通り実施。 ①鳥インフルエンザ等の感染症が国内で発生した際に、適時適切に死体の検査や現地調査等を行うため、基金を創設し必要な取組を行う。 ②鳥獣の保護管理を強化するため、担い手となる人材の育成、地域ぐるみでの捕獲のモデル地域づくり等の取組を総合的に行う。 ③我が国の生物多様性保全上、核心的な地域である国立公園でシカによる深刻な生態系被害を受けている地域において、国立公園の貴重な自然環境の保全を図るとともに、国立公園周辺地域への被害の拡大防止を図るため必要な事業を行う。						
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>	予算 の 状 況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求
		補正予算	-	-	-	-	-
		繰越し等	-	-	-	-	-
		計	-	-	-	-	2,000
	執行額	-	-	-	-	-	
	執行率 (%)	-	-	-	-	-	
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	野生鳥獣の適正な保護管理及び国立公園の生態系の維持、回復を目的としており、これらを定量的に数字で評価することは困難。	単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)	
		成果実績	-	-	-	-	
<b>活動指標及び 活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標	単位	20年度	21年度	22年度	24年度活動見込	
	【狩猟免許取得セミナー】 セミナー実施箇所	活動実績 (当初見込み)	-	-	-	( - ) ( 47箇所 )	
	【地域ぐるみの捕獲モデル地域づくり】 捕獲モデル地域	活動実績 (当初見込み)	-	-	-	( - ) ( 60地域 )	
	【国立公園等シカ管理対策事業費】 シカ管理対策事業実施箇所	活動実績 (当初見込み)	-	-	-	( - ) ( 3箇所 )	
<b>単位当たり コスト</b>	【狩猟免許取得セミナー】 3,215(千円/箇所数) 【地域ぐるみの捕獲モデル地域づくり】 4,314(千円/箇所数) 【国立公園等シカ管理対策事業費】 236,284(千円/箇所数)	算出根拠	事業費/事業実施箇所数				

平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由
	野生鳥獣感染症対策基金事業費	-	537	
	職員旅費	-	10	
	鳥獣等保護費	-	945	
	土地建物借料	-	8	
	国立公園等整備費	-	500	
	計		2,000	

**事業所管部局による点検**

	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	-	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	-	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	-	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	-	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	-	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	-	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	-	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	

**点検結果**

- ・鳥インフルエンザ等の感染症が発生した際の迅速かつ適切な対応は、国民の安全・安心を確保し、鳥獣と安心して共生する上で必要不可欠である。
- ・シカ/ノシシによる環境被害、農林業被害、生活環境被害は増加を続けており、捕獲の担い手の確保や鳥獣の捕獲を強化することは、鳥獣と適切に共生する上で必要不可欠である。
- ・シカによる国立公園の生態系被害の軽減、収束は、国民が利用する国立公園の景観保全や生物多様性保全の観点から重要であり、一刻も早く生態系の維持回復に向けた取組を行う必要がある。
- ・これらの業務は、環境省の所管であり、国が自ら実施すべきものである。

**予算監視・効率化チームの所見**

国民の安全・安心を確保及び国民が利用する国立公園の景観保全や生物多様性保全の観点から重要であり、要求をすることを認めるが、要求が認められた際は、効率的な執行に努めること。

**上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)**

（ここに改善点の記載を行う）

**補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）**

（ここに補記を行う）